

九	お菓子と興實とはどちらが好きですか。	
一〇	お宅のお茶室は何ですか。	
一一	夜は誰れとねますか一人ですか。	
一二	幼稚園への御希望をさかせて下さい。	

昭和五年

私立郡山幼稚園

○ 東京市番町小學 校附屬幼稚園 檜山 京子

今(三月)私の心持は送り出さうとする子等の一人／＼の上に、いつばいに働いてゐます。「おはよう」と呼びかけられてから、歸て行くまで、更に仕かけて行た製作物に「明日までこはさないでね」とたのまれた砂場や積木の構成物に、出しつばなしにした鉄に。

一方事務的には、日に日に机上に積まれて行く入園願書の紙片を受付け、幼児名を機械的に讀みながら、備品の修繕に、玩具の買入れに、新學期の爲にといふ事は念頭にありながら、それがまことに、習慣的と云ひますか、惰性的と申しますか不忠實な心の状態に居ります「新入幼児を迎へんとして」かういふ題をいただいて私は、ばつたり行き詰りました、なぜなら私の心はあまり今の太郎さんや、花子さん達を眺めすぎて、そこにばかり生きてゐましたから「幼稚園は満四才から満七才までの三年保育にはなれないのかしら」など、思ひながら今の幼児の行く手ばかりを見てゐるので。

ここまで書いてゐた私は「今下さるには無理な題なんだ」と思つてゐました。けれど月刊雑誌の三月號としては、當然などいふより適材適所といふべき、金的の様な題であるとも思ひました。そ

してこゝまで書いて来て、「ようこそ、この題を出して下さつた」と感謝する心持になりました。おそらくこの題に刺戟されない私は、保育完了式の日まで、或はもつとあとまで忠實にこの事を考へなかつたでせう。元氣よく行きすぎた子供の後姿ばかり眺めてゐたでせう。

そして四月一日、つかみ所のない多忙と、疲れた心持で、事務的に下駄箱に名札を貼たり、室に新しい又は繕た玩具をならべても、心持に於て、幼児に相對するには申譯ない、重みのない、うるほひのない、新鮮さのない状態を笑顔で、ごまかして、表面的事もなげに新入幼児を迎へたかもしれませぬ。私は今これを書きながら「四月になつたら幼稚園へ行くんだ」とお母様からも聞かされ自分もいろ／＼な望や想像を持てゐる子、又お母様だけが「どうしても幼稚園へいれよう」と思つていらしつて當人は、そんなにも思はずにゐる子、お

兄さんの行てる幼稚園へ、四月一日になれば私がいられるんだとカレンダーの紙を早く1といふ字にしたがつてゐる、等はつきりと、入園しようとしてゐる幼児達の事を考へる事が出來ます。

さうして私自身はじめて學校へあがつた日（不幸にして私は幼稚園兒といふ黄金生活をしませんでした）又あがる前の日自分の想像を思ひ出します。

「學校といふ所には黒板といふものがある」と母が話してくれたので、「黒板つて、何？」と聞いたら「黒い板でそこへ白いハクボクといふもので先生が白い字をおかきになるのだと」説明されたので、自分で板といへば大工さんがカンナをかけてゐる細長い板（私の家の隣に大工さんがゐましたので）を想像し、自分が母から書いてもらふ紙片から推して、小さい板片を想ひどんなものかしら、と第一コクバンといふ名が耳新しく珍くてた

まりませんでした。いよく學校へ行た第一日、見ると板といふよりは大きな壁の様なものですが、そこが眞黒で先生が白い字をお書きになるから「あれが母様から聞たコクバンなんだな、なんといふ大きなものだらう」とそこへ書かれるものよりコクバンそのものに氣をうばはれてゐた小さな子供。何十年前かの自分の心持をたどつて見て時代は違ひ、環境は異り想像に於ても好氣心に就てもずつと元氣に、自由な昭和の幼児達が、はじめて幼稚園へ來てうける印象、そこには行き届いた器物、玩具の用意の外に、何よりも大切な私達の心の準備が要る。來る子供の中には身體中を想像にして希望にして居る。それに室内の準備だけ出來てゐるのでは、劍道だつたら段違ひで刀合は出來ない筈だと思ひました。

「新入幼兒を迎へんとして」こんな大切なこんな適切な題を出して下さつた事を厚く感謝すると同

時に、これを書いてゐた心持を忘れずに、未知の私の幼兒達の爲に出來る丈心の備をしようと思ひました。

(昭和五年三月)

宵闇に浮かめる森や木の芽時

虚

子

暖の椿見ながら午餉かな

爲

王